

マイ・エンディングノートに ありがとう！を込めて

この度、私の油断で転倒、骨折し突然入院することになりました。

要支援の夫と二人暮らしの中での予期せぬ出来事でした。単身赴任中の息子が帰省の都度、夫の世話をしてくれ、嫁さんはパートの身で家事をやり繰りして病院に来てくれました。家族ならこそと激痛に耐えるベッドの中で涙しました。ただただ「ありがとう」の感謝の言葉有るのみです。この「ありがとう」の感謝の思いを「家族への愛のメッセージ」としてこの度初めて書くエンディングノートに書き残したいと思って居ります。

それから、今一つ身に沁みて思ったことは家庭内の諸事全般を私が一手に担って居りましたので、辛い入院の最中に貴重品の在り処等を伝えることは至難の業でした。いざと言うときに家族が途惑はない様に「家族への愛のメッセージ」として書き添えて置きたいと思って居ります。今回の入院経験で病の中での不安がどれだけ辛いものかしみじみ経験いたしました。励ましてくれる家族がいてさえも心細さは測りしれませんでした。

昨今のSLAでの電話相談ではご高齢の方の先行き不安、特に一人暮らしの方のご相談が多くなって来て居りますが、家族がいてさえも不安感は想像に絶するものが有ります。ましてや一人暮らしで身寄りがなければどんなに心細いだろうか。

現在私は退院し療養中ですが、幸いにも歩行困難な私に、身近な方々から暖かい手を差し伸べて頂いております。高齢社会の中で先行き不安の心細さを抱いて暮らしている高齢者の方々を、少しでも和らげてあげられる事は出来ないだろうか。SLAの私が出来る事は何だろうかと思いを馳せております。

(2期 安永美子)

達人たちの夢2015 地域活動報告

「達人たちの夢」では地域活動のパネルを展示しました。活動内容は次の通りです。

◇傾聴ボランティア「安佐北ミミの会」は、まさにSLA活動です。安佐北社協の復興連携センターでは被災地域での「すまいるカフェ」を支援し、可部東、大林で開催されている。月一回のカフェで安佐北ミミの会では、ハンドマッサージで気持ちを癒しながら、被災時やその後の話を聴き、問題があれば社協へつなげています。

◇広島市認知症アドバイザーとして、団体や地域で包括支援センターと共催の「認知症サポート研修会」を開催している。認知症の理解や接し方、オレンジリングの周知などの研修内容を通して、一人でも多くのサポーターの育成に努めています。

◇広島市環境サポートとしては、環境問題の種々のイベントに参加したり、また周知させたりなどしている。一方、子供たちが自然の中で、のびのびと遊べる場づくりなどにも傾注しています。

“継続は力なり”で微々たる活動ですが、それぞれ会員の皆さんと共に、明るく、楽しく、絆を深めながらの活動をしております。 (4期 柏原沃固)

